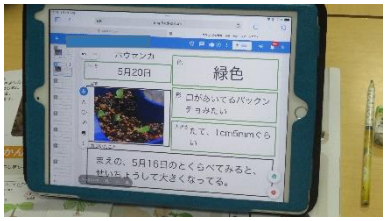
岡崎市立大樹寺小学校　校長室だより　令和６年６月１１日（火）　第８０号

大樹のこころ

ICT 活用事情

私たちの生活においてデジタル機器は欠かすことができない存在となっています。自分は「昭和の人間」ですので、情報ツールと言えば新聞・テレビ・ラジオでした。教員人生を歩み始めたのが平成元年。学校現場にはパソコンもなく、学級通信も通知表も手書きで作成するのが当たり前でした。それが時代が進み、今は身の回りにデジタルが溢れています。子供たちは、まさにデジタル世代であると言えます。学校でもデジタル機器の活用や情報モラル教育を行うことが求められるようになりました。本校は、学校現場にタブレット端末が導入されると同時に、積極的に活用してきました。実際どのような使い方をしているのか、大樹寺小 ICT 活用事情を紹介したいと思います。

授業で主に活躍するのが「スクールタクト」という学習アプリです。以前まで「プリント」として配付していた学習素材を、デジタル化して子供たちのタブレットに届けることができます。これが非常に優れもの。１時間で必要な資料をデータ化して準備もしやすい上に、子供たちの学びの様子も共有閲覧モードにすれば一目で確認できます。さらに子供が自分の考えをまとめたページを電子黒板にミラーリングして、教室全体で見ることもできます。これまでは小型ホワイトボードや画用紙に考えを書いていたのですが、一気に時間短縮です。



電子黒板も授業革命の一助を担っています。中でも役立つのがデジタル教科書。子供たちの手元にある教科書がデジタル化されたものですが、これを電子黒板に映し出すことができます。社会科の資料やグラフを提示したり、算数の筆算のやり方などを動画で視聴することもできます。さらに電子黒板は「ペン書き」ができるので、先生が補足説明をすることも可能です。子供の視覚に訴えることで、学習内容の理解につながっています。

理科の時間では、動物や植物の成長の様子をタブレットを使って、写真で記録することができます。これまでは、子供たちが観察して「絵」で記録することが主流でした。絵に描き写すことでより深い観察につながっていた面もありますが、時間がかかります。写真という正確な情報をもとに確認することで、確かな知識をもたらしています。図工の時間では、対象物を写真で記録し、それを見ながら絵を描くことができます。細部まで丁寧に描かれた作品が増えてきました。体育の授業では、自分の活動の様子を友達に動画撮影してもらい、確認することができるようになりました。自分の動きの良しあしを具体的に把握できるようになり、技量の向上につながっています。

このようにデジタル機器は、学校現場において大きな恩恵をもたらしています。正しい使い方を指導しながら、未来に生きる子供たちのデジタル活用術を磨いているのです。